

2015 年度事業報告

1. 荒川クリーンエイドの運営

【事業の概要】

荒川水系全体で荒川クリーンエイドを運営した。実施回数は過去最高を記録した。

ゴミを拾うだけでなく、参加者が川ゴミの環境負荷や発生原因等について学び、日頃からできるだけゴミを生まない生活を実践するような啓発を更に充実させた。特に、「マイボトル de ゴミ拾い。」キャンペーンを強化し、マイボトル持参率のアップに繋がった。

マラソン大会、サイクリング団体との連携を継続し、荒川河川敷利用者へのコミュニケーションの機会を設けることにより、流域市民・河川敷利用者への啓発を進め、ゴミが捨てられない気運をつくることに貢献した。

主催ゴミ拾いの回数を増やし、関心の高い個人の参加の機会を増やした。

【主な実施事項】

① 調べるゴミ拾い

2015 年も、散乱ゴミ、粗大ゴミについて「調べるゴミ拾い」を実施した。

171 会場がエントリーし、159 会場で実施、延べ 10,147 人が参加した。1,000 人規模の大規模会場の雨天中止、雨天縮小、実施見送り等で参加人数は減少したが実施会場数は過去最高となった。

年間の活動範囲を広げ、荒川下流では両岸計で 23.5km。全体の約 4 割となった。

② 感謝状の発行 <new>

実施団体に対し「感謝状」を発行し、活動参加の証しとするとともに感謝の意を込めた。(8 月 46 団体、12 月 71 団体、3 月 14 団体、計のべ 131 団体)

③ 説明会・体験会の開催

8 月 29 日に説明会および体験会、4 月 12 日、10 月 12 日に体験会を開催した。特に、初めて実施する団体、キャプテンや担当者が交代する団体には参加要請し、運営方針や実施方法の周知を図った。

④ 主催・共催会場の運営

4 月 25 日、1 月 31 日に FUJIO PROJECT、9 月 27 日に一般社団法人グッド・チャリズム宣言プロジェクト、6 月 14 日、12 月 13 日に豪田ヨシオ部とそれぞれ共催した活動を運営し、マラソン大会参加者、サイクリング関係者、若者団体等に荒川クリーンエイドを普及した。

あちこちクリーンエイドとして 5, 6, 7, 11, 12 月に 5 回、緊急出動クリーンエイド大作戦として 2, 3 月に 2 回、合計 7 回クリーンエイド活動を主催・運営した (3 月は企業と共催)。

⑤ 実施サポート

実施団体の要望に応じて、活動実施のサポートを行った。(26 団体合計 33 回)

⑥ 「ゴミをできるだけ生まないライフスタイル」の啓発 ～マイボトル de ゴミ拾い。～

「マイボトル de ゴミ拾い。」キャンペーンを強化するものとして、ペットボトルゴミの現状や減らす方法などについて、各会場に参加者に説明するための説明パネル (A3 版カラーパウチ 4 枚組) を秋以降実施の全会場に配布。また、マイボトル持参者がクリーンエイド会場で給水できるよう、希望会場に給水タンクを配布し、マイボトル持参の呼びかけを促進した。

⑦ 河川敷利用者への啓発

ゴミ持ち帰りを促す啓発用チラシを作成し、釣関係者が集まるイベント等で配布し、河川敷利用者へのゴ

ミ持ち帰りの啓発を進めた。

2. 生物多様性の保全

【事業の概要】

里川創造プロジェクトについては、国土交通省の「荒川下流自然地管理アダプト制度」の下、荒川クリーンエイドを中心に、楽しみ、学びながら都市の自然を守ることを目指し、他の市民団体、学校、企業等と連携して自然地の環境保全と普及啓発を進めた。

絶滅危惧種の復活プロジェクトでは、自治体や地域団体と連携して絶滅危惧種の棲める環境の再生を進めた。

【主な実施事項】

① 里川創造プロジェクト

江戸川区小松川自然地においては、「里川小松川自然地協議会」の構成団体として、地域の団体や企業と協働し、クリーンエイド、外来種の除草、モニタリング、自然環境教室等、自然地の環境保全とその普及啓発を推進した。荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、国と連携を継続した。

足立区千住桜木地区においても、荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、クリーンエイド活動を中心に、環境保全を進めた（両地区合計 20 回、のべ 1,984 人参加）。

② 絶滅危惧種の復活プロジェクト

荒川河川敷のヒヌマイトトンボ生息地において自治体、地域団体等と連携して生息環境の整備、および地域の参加者とともに生息個体数のモニタリングを実施（18 回）し、成虫を 3 回目視で確認した。

3. 環境教育の推進

【事業の概要】

荒川クリーンエイド実施団体や地域の団体と連携しながら、人々が川ゴミの問題について学び、環境保全意識を高めるよう、荒川をフィールドとした環境教育を推進した。

人材育成プログラムについては、若者層への啓発の機会として、新入社員研修を中心に、積極的に推進した。また、社会性向上・環境研修として、他の社員研修への応用にも取り組んだ。

【主な実施事項】

① 学校教育の支援

小松川自然地・里川創造プロジェクトの一環として、2 校 2 回の支援を行った。その他の地域については、地域の団体等と連携して、学校が実施する荒川クリーンエイドを支援した。

② 人材育成プログラムの実施

チームビルディングを体験しながら川ゴミの環境負荷について学ぶ「環境に悪いゴミ拾いゲーム」を中心に、プログラムをブラッシュアップした。5 社の新入社員研修、1 社の内定者研修、1 社の一般社員向け研修を実施した。

③ 自然環境教室の開催と支援

里川創造プロジェクトの一環として、市民が参加できる自然環境教室「バッタとなかよし」を 9 月 12 日に開催した。また、クリーンエイド実施サポートの一環として、自然環境教室の支援を行った。（6 回）

4. 水質調査の実施

【事業の概要】

身近な水環境をモニタリングし、水環境への関心を高めることを目的に、6月の「身近な水環境の全国一斉調査」に参加した。

【主な実施事項】

① 「身近な水環境の全国一斉調査」への参加

荒川本川、及びその支川、また、流域各地の川や池等での調査者を募集し、6月7日(日)午前10時を中心に40カ所で調査を実施した。その結果を取りまとめ、全国水環境マップ実行委員会に提出した。12月5日に開催された同実行委員会に参加し、調査活動の展開や運営について協議を行った。

5. 流域連携

【事業の概要】

荒川流域内の交流と、流域の課題の共有を目的に、源流域、中流域、及び下流域の団体と連携した活動を推進した。

【主な実施事項】

① 荒川源流エコツアーの実施

9月5-6日に、1泊2日で、荒川源流部へのエコツアーを実施し、12名が参加した。秩父市の薪拾いボランティアに参加し、現地で活動されている方との意見交換を行った。源流の森の恩恵を受けている下流域市民が、源流の自然を楽しみながら源流の問題を共有できる機会とした。

② 荒川流域再生プロジェクトへの参加

NPO法人荒川流域ネットワークが中心に推進する荒川流域再生プロジェクトによるアユの遡上調査活動に参加。8月22日に実施した「なつやすみ地曳網体験」に協力した。また、2016年3月13日開催の「荒川流域再生シンポジウム」に共催団体として参加し、流域連携を進めた。

③ 埼玉県河川環境団体連絡協議会や川の再生交流会への参加

埼玉県内の河川団体が加盟する埼玉県河川環境団体連絡協議会(埼玉河連)や、2月6日に埼玉県と埼玉河連の主催で開催した埼玉県・川の再生交流会に参加、パネル出展し、連携を図った。

④ 荒川自然懇談会を通じた荒川下流河川事務所との協働

当フォーラム役員が多数参加する荒川自然連絡会と荒川下流河川事務所との間で行っている「荒川自然懇談会」を官民協働の場とし、荒川の自然の回復に向けた協議を行った。

6. 他セクターや全国・世界とつながる活動

【事業の概要】

全国の川や海とつながって川ゴミ問題の解決、発生抑制に取り組むしくみ作りをスタートさせた。また、業界団体等と連携した、ゴミの発生抑制に向けた啓発にも努めた。

【主な実施事項】

① 全国の河川との連携 ～全国川ごみネットワーク～

他河川でゴミ拾い活動に取り組んでいる団体のネットワークとして「全国川ごみネットワーク」の組織化立ち上げを中心的に担い、事務局を務めた。そのネットワークにより、1月22日に第2回川ごみサミットを開催した。

② 関連団体等との連携

1月16日に、河川協力団体関東地区の活動発表および意見交換会に参加し、情報を共有した。

9月18日、12月15日に環境省海洋環境室主催のワークショップ、懇談会に出席、発表し、海ゴミに関する情報交換を行った。他にも日本プラスチック工業連盟と随時情報共有を行っている。

③ 海ゴミとの連携（一般社団法人 JEAN との連携）

調査期間中の荒川クリーンエイドのゴミ調査結果を一般社団法人 JEAN に提供した。調査データは国際海岸クリーンアップ (ICC) キャンペーンに報告され、世界の海ゴミ問題の解決に貢献する。

7. 広報・情報発信

【事業の概要】

各種情報媒体を活用し、主に次の目的で広報・情報発信活動を展開した。

- ・荒川クリーンエイドへの参加者・賛同者を増やす
- ・会員・関係者間のコミュニケーションを促進し、情報や運営方針の共有を図る。
- ・川ゴミの発生抑制を目指し、調査データ等を活用した情報発信を行う。

【主な実施事項】

① ホームページ

最新情報や各詳細コンテンツの充実を図るとともに、見やすいページ作りに努め、随時更新した。

② ニュースレター

会員・関係者との情報共有を図るべく、年2回発行した。(8月、1月)

③ Eメールニュース (メールマガジン)

毎月初めに (年12回) 配信し、各月の旬のニュースを届けた (各回約1,000名に配信)。

④ 報告集

ゴミの調査データや活動の成果を集約した報告集を3月に発行した(1,200部)。会員・関係者および情報拠点等に配布した。

⑤ ポスター、リーフレット

実施団体が秋のクリーンエイド参加者を募集する支援としてポスター1,000部、リーフレット17,000部を作成した。実施団体、沿川の自治体に活用いただいたほか、情報拠点や沿川の約30駅にポスターを掲示、駅のラックにリーフレットを配置いただいた。

⑥ 啓発フライヤー<new>

魚が棲めるきれいな川をめざし、ゴミの持ち帰りを促すフライヤーを作成し(5,000部)、釣関連イベント等で配布した。

⑦ 団体紹介パンフレット<new>

当フォーラムの沿革や活動内容をわかりやすく紹介したコンパクトサイズのパンフレットを制作し(10,000部) イベント会場および各所で配布した。

⑧ 映像<new>

荒川クリーンエイドの意義と活動の様子が楽しく伝わり、参加を促すような映像を制作した。映像は、セミナーや講演会で使用したほか、多くの方に見てもらえるよう YouTube でも公開した。

⑨ ソーシャルメディア

Facebook を活用してタイムリーな話題を提供し、荒川クリーンエイドや川ゴミ問題への関心を高めた。

団体ページへの「いいね！」数が7月には1,000を越え、多くの方に情報を届けている。

⑩ イベント出展

6月6日江戸川区環境フェア、7月28-31日下水道展、9月19日荒川ロックゲートフェス、9月23日あだち自然体験デーのイベントに出展し、荒川クリーンエイドへの参加の促進、川ゴミの発生抑制につながることを目指した情報発信を行った。

また、荒川クリーンエイド実施団体や情報拠点がイベント等で活用できるよう、パネルや紙芝居等の貸し出しを行い、荒川クリーンエイドや川ゴミ問題についての情報発信の機会とした。

⑪ セミナー開催

11月17日に兼廣教授を講師にお招きし、毎日メディアカフェでのセミナーを開催し、プラスチック汚染による川ゴミ・海ゴミ問題について情報発信を行った。

⑫ 外部講演・出演

5月23日川口市立南中学校、7月29日NPO法人21世紀水倶楽部（下水道展）、7月29日東京23区とこどん討論会実行委員会、11月6日東京都環境局、12月9日下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会、1月24日環境省海洋環境室、1月30日日本釣用品工業会、3月12日沼津市 各主催のイベント、講演会等に出演し、荒川のゴミ問題とクリーンエイド活動等について情報を発信した。

8. 組織運営

【事業の概要】

報告会及び連絡会を通じて、会員等とのコミュニケーションを活性化し、また、理事・運営委員会を通じて、より円滑な組織運営を図った。

【主な実施事項】

○報告会の開催

2月10日に報告会を開催し、活動の成果等を会員・関係者等と共有した。また、8団体に功労者賞を贈呈した。

○連絡会の開催

2月10日、報告会に併せ連絡会を開催し、意見交換を行った。兼廣教授から、「洗顔料や歯磨きに含まれるマイクロプラスチック問題」のテーマで話題提供、その後荒川でできることを中心に意見交換を行い、関係者等と今後の活動に向けて共有した。

○理事・運営委員会の開催

総会議案、人事等について協議・決定するため、理事会を3回開催した。

事業を円滑に進めるため、運営委員会を4回開催した。

○事務局体制の強化

専従職員1名の退職につき、専従職員を募集し7月に新規職員を採用した。またさらなる活動の充実をめざし新年度に向けての新規職員を募集した。

○ファンドレイジング（資金調達）

社員研修、企業サポート等自主事業化できるサービスを増やし、自主財源基盤の強化に努めた。

2015 年度活動概要一覧

事業	活動名	実施日・会場等	概要
1 荒川クリーンエイドの運営	荒川クリーンエイド 2015	4～12 月	エントリー 158、実施 146 会場、のべ 9,603 名参加
	荒川クリーンエイド 2016	1～3 月	エントリー 17、実施 16 会場、のべ 844 名参加
	説明会・体験会	8/29 足立区生涯学習センター 4/12、10/12 下平井水辺の楽校	活動の趣旨・実施方法の説明等 活動の体験と実施方法の説明等
	主催・共催会場の運営	4/25、1/31、9/27 6/14、12/13 5/17、6/28、7/18、11/28、12/19、 2/28、3/12	マラソン・駅伝大会、サイクリング団体と共催 豪田ヨシオ部共催 あちこちクリーンエイドとして主催 緊急出動クリーンエイドとして主催
	感謝状の発行	8 月、1 月、3 月	3 回に分けて、実施団体に発行・送付
	マイボトル持参キャンペーン(*)		「マイボトル de ゴミ拾い。」キャンペーンパネル活用
2 生物多様性の保全	里川創造プロジェクト	9/12、10/12 4 月～11 月 (?)	「バッタとなかよし」、植生モニタリング 小学校、企業等の活動支援
	絶滅危惧種の復活プロジェクト	4 月～3 月	自治体、地域団体等と連携して実施
3 環境教育	学校教育の支援	小松川自然地	2 校 2 回支援
	人材育成プログラムの実施	通年	社員研修 7 社 10 回。プログラム開発は通年
	自然環境教室の開催と支援	4 月～11 月(?)	クリーンエイドの後に 6 回、単独開催 1 回
4 水質調査	身近な水環境の全国一斉調査	6/7 12/5	水質調査 (40 カ所) 全国水環境マップ実行委員会出席
5 流域連携	荒川源流エコツアー(*)	9/5～6	薪拾いボランティア参加、意見交換会等
	荒川流域再生プロジェクト	8/22、3/13	地曳網体験、荒川流域再生シンポジウム
	埼玉川の再生交流会	2/6	参加、パネル出展
	荒川自然懇談会	7/14、10/27、3/4	随時参加
6 他セクターや全国・世界とつながる活動	全国川ごみネットワーク	8/7、1/22	設立総会、川ごみサミット開催
	関連団体との連携	1/16 9/18、12/15 随時	河川協力団体関東地区の意見交換会に参加 環境省海洋環境室主催の懇談会等で発表 日本プラスチック工業連盟と情報共有
	一般社団法人 JEAN との連携		荒川クリーンエイドのデータを提供
7 広報・情報発信	ホームページ、Facebook	随時	随時更新
	Eメールニュース (メールマガジン)	毎月初め	各回約 1,000 名に配信
	ニュースレター	8,1 月発行	約 400 部制作
	報告集(*)	3 月発行	1,200 部制作
	ポスター・リーフレット(*)	8 月発行	ポスター 1,000 部、リーフレット 17,000 部。参加者募集
	啓発フライヤー(*)	10 月発行	5,000 部。ゴミ持ち帰り呼びかけ
	団体紹介パンフレット(*)	9 月発行	10,000 部。団体の活動意義と内容を紹介。
	活動紹介映像(*)	8 月公開	活動紹介と参加促進
	イベント出展	6/6、7/29、9/19、9/23	区、その他主催のイベント等に出展
セミナー開催、外部講師等	11/17、その他	毎日メディアカフェセミナー、その他 8 回	
8 運 営	第 16 回定期総会	5/15 北とびあ	前年度事業報告と当年度事業計画等の協議
	報告会・連絡会	2/10 北とびあ	クリーンエイド 2015 成果報告、意見交換等
	理事会・運営委員会		5 回開催

(*)は助成金事業としての取組